

平成 30 年度 栗東市総合計画審議会 議事要旨

日 時：平成 30 年 7 月 10 日（火） 10：00～12：00

場 所：栗東市危機管理センター 3 階 大研修室（1）

出席者：新川委員、山口委員、清水(憲)委員、平田委員、上田委員、清水(久)委員、
鷹羽委員、内記委員、横山委員、谷口(浩)委員、佐野委員、鵜飼委員、
田中委員、小林委員、谷口(彰)委員、田川委員、今井委員

欠席者：小南委員、武村委員、砂脇委員、渡邊委員、吉仲委員

傍聴者：なし

次 第：1 開会

2 市民憲章唱和

3 挨拶

4 資料確認

5 委員の任命および委員紹介について

6 会長・会長代理の選任について

7 第六次栗東市総合計画策定に係る諮問について

8 協議事項

(1) 総合計画審議会の公開に係る取り扱いについて

9 審議事項

(1) 第六次栗東市総合計画策定基本方針について

(2) 第六次栗東市総合計画策定スケジュール並びに体制について

(3) 第六次栗東市総合計画基礎調査について

(4) 市民意識調査について

1 開会

2 市民憲章唱和

3 挨拶

4 資料確認

5 委員の任命および委員紹介について

6 会長・会長代理の選任について

事務局：会長は栗東市総合計画審議会条例により、委員の互選で定めることになっている。

委員：事務局に案があれば教えてほしい。

－各委員意義なし－

事務局：新川委員に会長をお願いしてはどうか。

－各委員意義なし－

事務局：会長代理は会長が指名することとなっている。

会長：それでは、商工会会長でもあり、また自治連会長でもある清水(憲)委員をお願いしたいと思う。

－各委員意義なし、清水(憲)委員了承－

事務局：それでは、新川委員に会長、清水(憲)委員に会長代理をお願いする。以後、進行

を新川会長にお願いする。

- 会長 : 重責を仰せつかり、皆さんと一緒にしっかりと進めていきたい。
: 栗東市は日本全体が縮小傾向にあるなか、幸せなまちだといえる。しかし、今後10年のまちの変化を考えると、人口・経済は右肩上がりの時代ではない。ある意味で、次世代の人々がこの栗東というまちで暮らし、次の次の世代を育てることができる、持続できるまちをどうつくっていくかが大きな課題であり、この総合計画は将来に向けて、しっかりとした礎をつくるための計画になる。
: 現計画の期間、人口は増えたが、市長さんは財政再建や産業振興に苦勞してこられたと思う。これからは、市民の力をもっと有効に活用してまちをつくるための総合計画が必要である。皆さんとともに知恵を絞り、汗をかきながら良い提案をしていきたい。

会長代理 : 10年前の計画にも携わったが、栗東市を大津市や草津市と置き換えられるような漠然とした議論も多かったように感じる。子、孫までこのまちの良さを受け継いでいけるような計画にしたい。

7 第六次栗東市総合計画策定に係る諮問について

8 協議事項

(1) 総合計画審議会の公開に係る取り扱いについて

—事務局より資料説明—

事務局 : 本審議会も「栗東市附属機関等の会議の公開に関する要領」の対象となることから、公開としたい。

会長 : 原則公開となる機関に関する要領が定められ、本審議会もこれに該当することから要領に定める扱いをしたいとの提案だが、ご意見はあるか。

—特に意見なし—

会長 : 今やこうした会議は公開が原則である。本審議会もこれに準じ、公開するものとして進めさせていただいてよいか。

—各委員意義なし—

会長 : それでは提案通り、要領に基づいて公開とする。本日の傍聴希望者はいない。

9 審議事項

(1) 第六次栗東市総合計画策定基本方針について

—事務局より資料（資料4）説明—

会長 : 市としての計画策定に関する考え方、手順等を説明してもらった。質問や意見があればいただきたい。

—特に意見なし—

会長 : 示されているのは大枠であり、これに従って進めることとし、実際の審議においては工夫しながら活発に議論できるようにしたい。

会長代理 : 構想10年、計画が前後期各5年ということだが、滋賀県総合計画は構想12年、計画が4年×3期となっている。これは知事の任期に対応したものであり、市長にも政策があると思うので、例えば構想8年、計画前後期4年とした方が市長任

期と合致するのではないか。

事務局 : 市長任期との整合性については市内でも議論となったが、市長選の時期とも日程が離れており、提案のような期間でよいと判断した。

会長代理 : こだわらないが、6年前、当時の県知事が計画を反故にして新幹線新駅の中止を決めた。今回は策定・決定するのが市長任期1年目なので政策も反映できると思うが、県政のように反故にされるようなことがないようにしたい。

市長 : 次回以降の課題にさせていただく。

会長 : 構想10年、計画5年という構成だが、実施計画は構想・計画を尊重しながら時々事情や市長の意向を反映していくものになる。そうした枠組みも想定しながら審議いただきたい。

: 他にご意見はあるか。

—特に意見なし—

会長 : それでは、基本方針に基づき、今後の計画策定を進めさせていただく。

(2) 第六次栗東市総合計画策定スケジュール並びに体制について

—事務局より資料(資料5、資料6)説明—

会長 : 構想が固まった後、平成31年度に審議会で行う「計画・部会審議」とはどのように想定しているのか。

事務局 : 22名の審議委員に3つの部会に分かれていただき、分野ごとに議論いただく方法を考えている。進め方としては、まず全体会議を全委員で行い、その後、部会に分かれて審議するような形で審議いただければどうかと考えている。

会長 : 今年度は全体で構想について審議し、来年度は基本計画を詳細に審議するため、部会に分かれて議論してはどうかとの提案である。具体的にどのような進め方をするかについては、またその時に審議会で相談したい。

: その他、特にご意見がなければ、提案のスケジュール及び体制を基本に進めさせていただく。

(3) 第六次栗東市総合計画基礎調査について

—事務局より資料(資料7)説明—

委員 : 例えば65頁下表において、目標に達していない項目が多い一方、同頁で「住み続けたいと思う市民の割合」は56.0%から69.8%に増えている。他の項目と比較してもこの割合が群を抜いて増加しているのはどのような要因によるものなのか。定住意向が高いことはよいことだが、その理由がわからない。「出て行くにも行けない」という足かせがあるというだけではないと思う。そうしたことがわかるようにしたい。

事務局 : 平成28年度調査の結果だが、達成度は右肩下がりとなっている。特徴的なのは「わからない」の比率が高いことで、達成状況についても同様の傾向がある。アンケートにあたっては、本市の取組施策やその効果についても提示しているが、ご指摘の点については今回の調査も含め、検討していきたい。

委員 : 市長との懇談会でも話したが、座談会も含めて、女性の参加が少ない。就学前協

議会なら保護者の意見など、市民の意見を聴く機会は多様にあり、行政や教育委員会に対して厳しい意見も出ていると思う。アンケートはそれ単体ではなく、そうした様々な機会で作られた意見と合わせて、行政内部で課題を見逃さずにフォローしていく必要がある。全体を通して言えることだと思う。

：大阪北部地震の際の保育園、幼稚園、小学校の対応も様々で、近隣のまちに比べて感心できるものではなかったと感じる。

事務局：各種団体ヒアリングや学区別懇談会等でご意見を聴き、計画に反映させていきたい。市民意見はアンケートだけにこだわるものではない。

会長：アンケートのほか、様々な意見を計画に反映していく取組は、我々がやらなければいけないことでもある。

委員：66頁にある「栗東市総合戦略」の策定に関わったが、その時にも議論になったこととして、例えば住宅サポートなどの施策で競い合って、周辺自治体と人口の取り合いをしても仕方ないのではないかと、ということがある。それよりも、人口全体は増加しているが若い世代が流出しているといった独自の問題に向き合うべき。子どもが増えれば社会保障費も大きくなるが、そこは長期的な視点で考える必要がある。

：国全体が縮小に向かうなか、栗東市には10年程度の余裕があると考えたら、人口が減っても豊かに暮らせる仕組みをつくる10年になる。人口が減るなら市民により大きな負担を求めるときも考えなければ、計画も実現不可能になるかもしれない。また、人口が増えることが本当に良いことなのかという議論もある。

：何を指すのかを明確にし、栗東市らしさを押し出さなければいけないのではないかと。無難な計画ではなく、場合によっては思い切った考え方も必要かもしれない。

会長：貴重なご意見であり、今後の審議でも反映していきたい。

委員：62頁以降の達成状況の整理で、基準値はどうやって定めたのか。

事務局：第五次総合計画後期基本計画策定にあたって実施した市民アンケートによる数値を基準値としている。現状値は平成28年度に実施した同様の調査によるものである。

委員：わかりました。

委員：学区懇談会は小さな学区で実施するのか、それとも中学校区(3学区)で行うのか。それによって出てくる意見も異なる。より身近な意見は中学校区では出てこない。

事務局：学区別懇談会はまだ決定しているものではないが、9小学校区ごとに開催したいと考えている。

委員：ぜひそれをお願いしたい。

会長：この資料については、今後の審議にも活用してほしい。

(4) 市民意識調査について

－事務局より資料(資料8、資料9)説明－

委員：先程からの意見で核心をついたものがある。例えばこれまでもいろいろな会議の場があり、行政に対して様々な意見が出ている。それらの意見がきちんと吸い

上げられているか。今回の計画策定においても市民フォーラムや学区別ヒアリングを行うとのことだが、そうした場で、日々の会議で出ているような意見が総合的に整理されて出てくるか。アンケートもそれはそれで大切だが、回答者を無作為抽出で選んだとしても、そこには一定のバイアスがかかる。ビッグデータの取り扱いについての研究も進むが、もっと隅々からの情報収集、あるいは市内で活躍する団体が日常感じている意識などの情報を一元化できないか。いきなりのチャレンジは予算の問題もあって難しいかもしれないが、アンケートをもって全ての市民の意識が把握できるものとするのは危険ではないか。

: アンケート結果のみが評価の役割を担うのではなく、その理由等を分析してほしい。PDCAで大切なのは評価の部分であり、そこが曖昧では次のアクションにつながらない。どこかで組織的に実施する必要がある。

: 行政ということではなく、栗東市というまちが持つ構造を把握することが必要ではないか。総合計画において、市民と行政の中間部分にあたるものが視野から外れている印象がある。すぐにできることではないが、「次の機会に」ではまた進まなくなるので、総合計画の策定を進めるのと並行して取り組んでほしい。

会長 : 今後のこの審議会や庁内での検討、そして市民参加の機会において出される意見の生かし方に関わる重要な指摘である。

: 第一に、どこまでできるかはまだわからないが、アンケートもそのツールのひとつとして、それ以外の市民参加を計画づくりに生かしてどう作り込めるかが問われている。

: 第二に、これまでの計画の評価を踏まえて計画を考える必要がある。施策・事業の成果について分析し、次に生かす視点が必要である。

: 第三に、基礎資料もそのひとつだが、まちの基礎的・構造的なものを踏まえた議論が必要であり、それがなければ計画が偏ったものになりかねないということ。栗東市というまちをトータルに把握し、将来を展望する構想・計画にしなければ、効果的な計画にならない。

: ご指摘に留意しながら、議論を進めたい。

委員 : 例えば問 22 では、農業と林業に対して回答はひとつとなっている。これは答えにくいのではないか。

事務局 : 第五次総合計画後期基本計画の 38 施策を 27 の設問にまとめている。当初も「農業が 1 で林業が 3 だとどう回答するのか」といった議論はあったが、広い視点で評価いただくということで項目の一本化を図っている箇所がある。

: 次期計画ではこうした部分も検討したいと考えているが、平成 26 年度、28 年度との系年変化を把握するためにも、今回はこうした形で実施したい。

委員 : 過去ありきでなく、次期計画をどうするかが重要であり、アンケート対象者にこれが送られてきても、回答する気にならないのではないか。解説文まで読んで回答しようと思うか。回収率も低くなるのではないか。

: いっそ、「栗東市の総合計画を知っているか」という設問を設け、その部分を回答するだけでも返信できるように設計し、もし詳細な回答が必要なら、市のホームページにアクセスし、そこで答えてもらうようにしてはどうか。自治会役員に依

頼しても、20分かけて回答しようとはならないように感じる。

事務局 : 20分かけて回答いただくのは大変だと思う。ただ、33項目の評価については、後期基本計画に対する市民意識の変化を確認する上で、欠かせない設問となっている。

: 次期計画では、こうした施策レベルではなく、政策レベルで評価をいただく方法の検討も必要ではないかと考えているので、今後、議論をお願いしたい。

委員 : 対象2000人ということだが、回収率はどの程度の想定か。活用しようと思うなら、市民の1割くらいの回答は必要ではないか。2000人では少ないと思う。また、こうした会議に参加している我々ならわかるかもしれないが、これでは回答するのが大変であり、回答者のことを考えたもっとわかりやすいアンケートにしてほしい。5段階評価では本質、そのように判断した理由がわからないのではないか。

事務局 : 回収率はそれぞれの場面で異なるが、平成26年及び28年では概ね40%程度で、今回も同程度を想定している。800件が十分かという議論もあるが、人口規模から考えると、一般的な調査としては400件程度あれば統計的には一定、有効な意見把握が可能と考えられている。

: 5段階評価の部分がわかりにくいとの指摘については、次期計画も含め今後の課題として考えたい。

委員 : 宜しくお願いする。

会長 : 特にアンケート8頁以降が次期計画にも関わる部分だが、特に意見はないか。

—特に意見なし—

会長 : それでは、今回は基本的に事務局提案による枠組みでアンケートを実施する。今後、さらにご意見をいただき、可能な部分については修正対応をお願いする。

●その他

会長 : 本日の審議事項は以上とする。今後の進め方や論点についての提案などあれば、またご指摘いただきたい。それでは本日の審議会を終了させていただく。

事務局 : 慎重なご議論をいただき、感謝する。また、言い足りない、あるいは後程気づいたことなどあれば、「ご意見シート」に記載いただき、20日を目処に頂戴したい。

: 次回審議会は11月中旬を考えているが、各委員のご都合はいかがか。

—調整の結果、11月7日10:00〜で設定—

会長 : 次回はアンケート結果の報告、構想の骨子・枠組みについて議論いただきたい。

事務局 : 長時間の議論に感謝する。これが今回のキックオフとなる。市民の皆さんに納得いただける計画づくりに向け、皆さんのご協力・ご尽力をお願いしたい。

10 閉会

以 上